

## 〈第20回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

## 開 催 挨 拶

環境システム計測制御学会 会長 田 中 宏 明

この5月、松井三郎前会長の後を引き継いで、EICA 環境システム計測制御学会会長となりました田中宏明です。よろしくお願いたします。EICAの研究発表会開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。

まず、本研究発表会に230人にのぼる多数の皆様方にご参加いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

水質にかかわる世界最大の学会であるIWA国際水協会の前身、IWPRC国際水質汚濁防止協会の水処理の計測、制御、自動化に関するICA専門家グループが1973年に作られて以来、国際ワークショップが4年おきに開催されています。第1回研究発表会は、そのICA国際ワークショップの国内プレ会議として、1980年10月に大阪科学技術センターで開催されたものであります。

1990年、わが国で初めての水に関する大規模な国際会議である第9回IAWQ国際水質協会の隔年総会が京都で開催されたことをきっかけとして、1991年、本学会は「EICA 環境システム計測制御自動化研究会」として発足いたしました。従いまして、第1回研究発表会はEICA発足の10年前に遡り、30年近くの歴史をもつものです。

1996年、本会は現在の「環境システム計測制御学会 (EICA)」に名前を変え、順調に発展してまいりました。研究発表会も、今回で第20回の節目を迎えることができました。これも一重にEICA会員の皆様のご協力とともに、本会の活動にご理解を頂き、ご支援をいただいております関係学協会、国、自治体の関係行政機関、研究機関、大学関係者、並びに賛助会員、企業など多くの方々のお蔭であり、厚く御礼を申し上げます。

特に、今回の研究発表会開催に当たっては、地元である横浜市環境創造局の皆様方には、大変お世話になり、誠にありがとうございます。横浜市においては、2004年に開催された第16回研究発表会に続いての開催であります。これはこの会場をはじめとした学会開催に適した国際都市「横浜」という素晴らしいネームバリューに加え、下水道事業をはじめとした環境事業に、先駆的、先導的に取り組まれるとともに、環境事業に関連する本学会へのご理解をいただいていたことの証であると思います。

さて、第1回の研究発表会が開催された1980年以



来、この約30年間に環境事業はめざましく発展してまいりました。水道事業では「おいしい水」・「安全安心」をキーワードに、オゾン処理や膜処理などの高度浄水処理が進んできております。また、下水道事業においては東京湾などの富栄養化対策等の必要性が認識され、高度処理の実施や汚泥処理の処分から有効利用への転換が図られるとともに、浸水対策とともに合流式下水道対策などへの対応が進められております。一方、廃棄物事業においてはダイオキシン類対策への取り組みをはじめ、生活様式の変化、環境に対する市民意識の変化、最終処分場対策などからごみの減量化と資源循環へと進んできております。いずれの環境事業も「建設」から「管理」に重点が移行しつつあり、より効率性と信頼性の高い維持管理を行うため、計測、制御、自動化技術は、益々重要となっています。

このように上・下水道事業、廃棄物事業においては、より複雑化したシステムにおける運転管理の高度化への対応とともに、エネルギー使用量の大きな事業分野として、今後、低炭素社会の構築を目指して資源の有効利用、温暖化ガスの削減、省エネルギーの促進や未利用エネルギーの活用への取り組みが事業運営の上でも大きな課題となってまいりました。また、これらの環境事業を推進してこられた自治体では、財政の健全化が求められ、同時にアセットマネジメントや地震対策など、将来にわたっても、持続可能な事業として、より効率的で、サービスとコストを意識した事業の実施を強く求められているところであります。

このような背景から、この研究発表会では、本日このあと「地球温暖化防止エネルギー対策と技術戦略

——ポスト京都の国際枠組み——」をテーマとして東京大学の山地憲治先生に基調講演をいただくとともに、この分野の専門家の先生方をお招きし、パネルディスカッションを行い、温暖化防止のためのエネルギー対策面から見た今後の技術開発・研究への提言を行っていただく予定です。

2日目は、膜処理、浄水処理、エネルギー・再利用、下・廃水処理、廃棄物処理、施設管理・制御、モニタリングまで環境システムの幅広い分野における、計測、制御、管理に関する研究発表が55編にわたり行われる予定です。さらに、環境事業の包括民営化の国際的な動きと、我国での環境事業の管理段階へのシフト、急速に広がりつつある維持管理の包括的民間委託を見据えて、ディスカッション方式の企画セッション「維持管理」を予定しております。明日11時から松井三郎前会長を座長として、この講堂で開催する予定ですので、皆様方のご参加を是非お願いいたします。

環境システム計測制御分野の将来展望を考えますと、次世代を担う若手技術者・研究者同士が産官学の組織・世代を越えて積極的な交流を進めていくことが重要となります。EICAでは、若手会員の育成のための連続セミナーとして「未来プロジェクト」を行っております。未来プロジェクトでは、産業界・環境分野な

どで活躍されている「講師の先生」をお招きし、話題提供とテーマの提示を頂き、参加者でのグループ討議と発表、講師の先生から講評を頂く形で実施しております。今回、未来プロジェクトⅢの成果発表が明日14:40から、未来プロジェクトをご指導いただいた東京大学の味埜先生、京都大学の清水先生を座長として開催される予定です。

なお、本年度の研究発表会は、2009年6月14日から17日にオーストラリア・ケアンズにおいて開催されるIWA国際水協会のICA国際ワークショップに向けての国内プレ会議としての位置づけも併せ持って開催するものです。本大会での発表が直ちにワークショップでセレクトされるものではありませんが、優秀な発表につきましては、EICAとしまして積極的な論文投稿を後ほどお願いしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後に、本日、明日と2日間にわたる本研究発表会が、新しい情報発信と意見交換の場となり、より充実した時間となるために、皆様方の積極的な質疑応答につきましてもご協力をお願いいたしまして、ご挨拶いたします。